

コープさっぽろなど
オンラインで実況中継

8月3日コープさっぽろ組合員活動委員会主催の平和の集いがヒバクシャ会館の3F研修室で行われました。その様子をオンラインで全道配信しました。

会場には親子での参加を含めて十余名、「10秒間の衝撃」を観た後、金子廣子さんの被爆証言を聞き、ついで2階の展示品の説明を受けました。また会館建設に関わった組合員は当時の思い出を語り、最後に峠三吉の原爆詩を朗読し集いを終わりました。



核兵器の禁止にむけて
勤医協の青年たち学習会



7月27日、勤医協札幌病院の青年職員たちが会館を訪れ、原水爆禁止の重要性を学習しました。

廣田凱則さんが自らの被爆体験と長崎への原爆投下の特徴を話しました。質疑の中で放射線被爆の怖さが浮き彫りになりました。その後の2F展示室も時間をオーバーして見学しました。

なお最初に4千羽の折鶴が寄贈されました。これは勤医協の医師で陶芸家の福山桂子さんの陶芸写真展会長を見て、病院の患者が折ったもの。追悼会の場にも掲げられました。

今年も
「赤紙」を配りました！

8月15日の「終戦記念日」、札幌駅南口広場には40名超える人々が、さっぽろ平和行動実行委員会が毎年続けている「赤紙」(召集状の複製)配りの行動です。

アジア・太平洋戦争で日本人は軍民あわせて310万人が亡くなり、日本の侵略を受けたアジア諸国民は2000万人を超える人々が犠牲になりました。

「日本政府は核兵器禁止条約を批准せよ、核兵器も戦争もない世界を、憲法改正を許さない」と訴え、「赤紙」を配りました。廣田会長代行も訴えました。



教科書の理解を深めるために

8月29日と9月5日、ノーマア・ヒバクシャ会館の近くにある平和通小学校の5年生計4名がやってきました。国語に「たずねびと」という教材があり、先生が「ヒバクシャ会館に行つてごらん」とおっしゃったそう。展示を見て3階の図書室から本を借りていきました。

戦争のない平和な未来のために
学びあう生徒たち

「原爆で14万人も死んでしまったのがびつくりした」「やっぱ見ていてつらかったし、戦争をしても死者が出たりして、いいことひとつもないのになぜする必要があったのだろう」「小さな子供から大人まで、しかも赤ちゃんまで、数多くの人が死んだ。なぜする必要があった?」「これがほんとにあったと思うとすごくこわいです」

高校で語り部、大きな感銘

札幌市の被爆者派遣事業が続いています。コロナのために中止・延期したところもありますが、蜜を避け細心の注意をはらって実施。9月3日、大通り高校では

大村一夫さんが証言。生徒が事前学習をしていたこともあり、担当の先生が「大成功でした」というほど、大村さんの証言と生徒の集中力がかみ合っていました。

「原爆の恐怖は肉体的なものだけでなく大人になっても感じる精神的な苦痛もあるのだと思いました。」「へ今を生きていくことが全というのが軽くは受けとめられず……ぐっと心の深いところにお話が入ってきました。」「関係ないで終わらせず、話せなくても知ることは私にも出来るので、これからも知っていこうと思います。」「今後の人生で聞く事ができないような本物の体験談を聞く事ができて新鮮な気分だった。本心を言えば自分は戦争に全く関係ないと思っていたが、リアルな話と心からの願いを聞き、考えを改めた。」

緊急事態宣言の延長に伴い

会館は引き続き30日まで午前中のみ開館とします(土・祝休み)。

今から予定を 11月3日(水)

「被爆者からあなたに」講演会と被爆二世プラスの会会員の集い。今までの中央相談事業講習会に代わるものとして考えています。